

仙川教会のコロナ感染防止のための危機管理(リスクマネジメント)

仙川教会執事会

はじめに

a. リスクマネジメント作成の必要性

2020年10月はじめの今もなお新型コロナの渦中にあり、感染リスク（感染する、感染させる）を抱えている。日本（仙川教会と関係者の大部分が東京に住む）だけでなく、世界中でコロナ感染（パンデミック）終息の見込みが立っていない（コロナ禍の現実がある）。医療専門家は、今後1,2年つづくだろうと予想している（資料1）。実際、国民の75%がコロナ感染への不安を感じている（資料2）。

教会は、礼拝をはじめとする集会と活動に人々が自由に参加できる場所、コミュニティ（主にある神の家族）であるので、適切な感染予防策を立て、参加者が厳守することでリスクを減らす努力をする必要がある。また、感染者が出た場合を想定し、事前にできるだけの対応策を立てておくことが必要である。

b. リスクマネジメントの基本

命を守るという人間としての基本に立つ：自然と命の創造主である神を畏れ、生命科学/医学の知見に基づいて感染症を正しく恐れ、一人ひとりが社会生活する中で、感染すること・感染させること・拡がることを恐れ、心身共に健康な生活に心がけ、行動することを基本とする。

コロナ禍中の危機管理(リスクマネジメント)＝「コロナウイルス感染リスク管理方針」

課題 (A) :

A1: 新型コロナウイルス(corovic-19)の特性、感染のしかた、症状などの基本情報を共有し、国内外の感染状況の推移を把握し、行政府の方針を視野にいたした上で、仙川教会が主体的に「感染リスク管理方針」をつくる。

- a. 教会員は、教会の本質(主にある神の家族)と諸活動の特性を理解した上で、感染防止策(S1参照)を共同の課題と捉え、自分事として実行する。
- b. 社会人として日々生活を送る中で、どんな場面のどんな行動が感染リスクを高めるのかを知り、自他の感染防止に努める。
- c. 教会は、コロナ禍と向き合い、乗り越えるために、己だけでなく国内外、地域や医療従事者の実状にも目を向け、協力できることは何かを考え、祈り、実行可能な形を探る。

A2: 教会における感染防止策と実行スキーム(手順)

[感染予防のためのガイドライン(2020年7月、執事会で決定) (S1):

<http://www.sengawac.com/August&laterWorship2020.pdf>

●主日礼拝:

- ・2回に分けて行う（第1礼拝：70歳以上の高齢者中心、第2礼拝：一般来会者）。
- ・高齢者は感染リスクが高いことを考慮し、第1礼拝は高齢者のみとする（協力願い）
- ・礼拝出席者を第1、第2とも対面をできるだけ避ける人数とし、超える場合には、フェローシップホール、または2階の部屋に移っていただく。
- ・出席者間の距離を2m以上空けて椅子に座る。

- ・母子が出席する場合、ご心配な方は2階の母子室を利用してください。
 - ・来会者への協力願い：マスクを着用し、受付で両手をアルコール消毒し、検温してから会堂に入ってください（マスクのない人のために受付に予備を用意しておく）。
 - ・礼拝中は、マスク着用を原則とする。暑さや賛美の時などに息苦しく感じる場合には、熱中症となる危険性があるので、周囲との距離を見て適宜マスクを外すことを許可する。
 - ・講壇上の礼拝司会者とメッセージを語る牧師の前に飛沫防止のためアクリルスタンドを置く。
 - ・礼拝中はエアコンを付け、適宜、南北の窓を開け、換気する。講壇に扇風機を置く。
 - ・主の晩餐では、ゴム手袋をしてパンと盃を各自のティッシュの上に配膳する。
- *礼拝に参加できない人にはリモート配信する。
[礼拝前後]: 礼拝の前と後で、テーブルと椅子、玄関・ドアノブ、手摺り、トイレ、エレベーター、コピー機などを消毒する。

● 教会におけるその他の集会

- ・ガイドラインの基本は礼拝と同じ（“三密”をさける、マスクを着用する、消毒する）。
- ・食事を配膳する集会は行わない（出席者は、各々食べ物を持参する）。
- ・食べる際は間隔を開けて、換気をしっかりする。

● 教会員、家族がコロナに感染、もしくは濃厚接触者となったことが分かった場合

- ・できるだけ早く牧師に経緯を連絡いただき、入院、隔離、自宅待機などの処置については病院・保健所に指示に従っていただく。名前は公表しない（プライバシーを厳守する）。教会との連絡は、牧師を通じて行っていただく。迷う場合には、とりあえず連絡していただきたい。
- ・すぐに臨時執事会を開き、礼拝などへの対応について話し合い、教会員に通知する。
- ・感染した当人が適切な治療を受け早く回復できるよう、またご家族のために祈りを合わせる。決して差別的な態度、非難中傷をしないよう教会内で確認する。
- ・事前に連絡網（牧師⇔執事⇔教会員・来会者）を作成しておく。

● コロナ感染危機管理の運用に必要な経費

- ・感染対策に有用な物品、情報作成費などの経費を特別予算として用意する。
（これまでの購入例：検温器、アクリルスタンド、消毒液、タオル、ゴム手袋など）

*引用資料は、教会のウェブサイトから見るができます（近日中に整えます）。
<http://www.sengawac.com/infoCorvid19.html>

[参考] 社会生活をおくる中での感染予防法

各人が日頃から感染防止に注意することで教会生活にも生かされますので、互いに留意しましょう。

- ・基本：コロナウイルスの怖さ（いつどこで感染するか分からない、感染しても数日間無症状だが、感染させる力が大きく、家族、学校、職場などに感染がクラスターとして拡がる可能性がある）を念頭において日々生活する。
- ・外出する時には、マスク/顔シールドを着用、“三密”に注意する。ドア・手摺り・机・椅子・台座への接触に注意し、顔・目・鼻に手を当てない。外食、人混み・旅行などの際には普段以上に注意する（資料3）。
- ・外出から帰宅したらすぐに石けんで手をよく洗う（親指、指の間、指先なども意識して洗う/20秒以上）（資料4）。
- ・体温上昇(37.5℃以上)、空咳、倦怠感、味覚異常などの変化に注意し、疲労をためず、十分な睡眠時間をとる。定期的な体操、運動などの習慣をとり入れることで免疫力を高める努力をする。
- ・病後で体力が弱っている時や基礎疾患（持病）をかかえている場合には、特に感染防止に気をつける。
- ・PCR検査、抗原検査などを受ける場合の手順・条件・費用などを事前に調べておく。
- ・住まいに近い感染症指定医療機関を調べておく。(例えば、都立多摩総合医療センター、都立松沢病院、武蔵野赤十字病院)。

<https://ningyocho-cl.com/pcrkensa-hikaku-tokyo/>